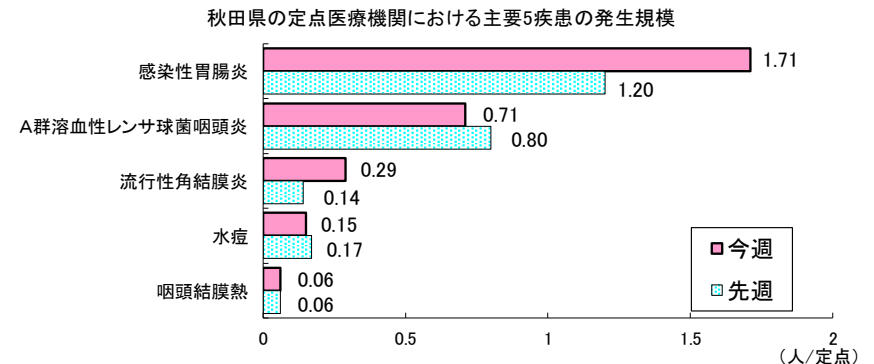




【第11週の発生動向】

< 定点把握対象疾患(週報)・前週比 >

1. 感染性胃腸炎は、県全体で1.4倍に増加しています。保健所別では、秋田市、北秋田、横手で増加、大館、能代、秋田中央、由利本荘、大仙、湯沢で減少しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で11%減少しています。保健所別では、能代、秋田中央、由利本荘、湯沢で増加、大仙で同規模、秋田市、大館、横手で減少しています。
3. 流行性角結膜炎は、県全体で2.1倍に増加しています。保健所別では、秋田市で増加、大仙で同規模となっています。



発生報告

< 五類定点対象疾患(週報) >

疾患名	秋田県			秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢		
	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減	第10週	第11週	増減			
RSウイルス感染症	0.03		↘																					0.33		↘				
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.06	0.06			0.29	↗																0.25		↘				0.25		↘
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.80	0.71	↘	2.14	1.14	↘	0.25		↘					0.33	↗	0.75	1.25	↗	0.25	0.75	↗	1.50	1.50		0.33		↘	0.25	0.33	↗
感染性胃腸炎	1.20	1.71	↗	0.43	5.57	↗	0.25		↘		1.00	↗	1.67	0.67	↘	1.50	1.00	↘	0.75		↘	3.50	1.00	↘	0.67	2.33	↗	2.00		↘
水痘	0.17	0.15	↘		0.29	↗	0.50	0.50					0.33		↘	0.25		↘		0.25	↗				0.67		↘			
手足口病																														
伝染性紅斑	0.03		↘													0.25		↘												
突発性発しん	0.26	0.06	↘	0.57	0.14	↘	0.50		↘										0.50		↘				0.33		↘		0.33	↗
ヘルパンギーナ																														
流行性耳下腺炎																														
川崎病	0.03		↘																			0.25		↘						
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*										*	*		
流行性角結膜炎	0.14	0.29	↗		0.33	↗				*	*		*	*		*	*					1.00	1.00				*	*		
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎																*	*													
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)		0.13	↗													*	*								1.00	↗				

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。

「*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・二類感染症の結核が大仙保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症のアメーバ赤痢が秋田市保健所管内から1人、侵襲性インフルエンザ菌感染症が秋田市保健所管内から1人、梅毒が湯沢保健所管内から1人、報告されました。
- ・新型コロナウイルス感染症が秋田市保健所管内から2人、北秋田保健所管内から1人、大仙保健所管内から5人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	(人)		
		1週-10週	11週	12週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	2742	10	1
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ			
	細菌性赤痢	4		
	腸管出血性大腸菌感染症	149		
	腸チフス			
	パラチフス			
四類	E型肝炎	120		
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	16		
	エキノコックス症	3		
	黄熱			
	オウム病	1		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	2		
	キャサナル森林病			
	Q熱			
	狂犬病			
	コクシジオイデス症			
	サル痘			
	ジカウイルス感染症			
	重症熱性血小板減少症候群	7		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
	ダニ媒介脳炎			
	炭疽			

類型	疾患名	(人)		
		1週-10週	11週	12週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱			
	つつが虫病	58		
	デング熱			
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	5		
	日本脳炎			
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症			
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ポツリヌス症			
	マラリア	3		
五類	野兎病			
	ライム病	4		
	リッサウイルス感染症			
	リフトバレー熱			
	類鼻疽			
	レジオネラ症	221	2	
	レプトスピラ症	1		
	ロッキー山紅斑熱			
	アメーバ赤痢	113		1
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	29		
カレバベネム耐性腸内細菌科細菌感染症	303	3		
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	3			
急性脳炎	60			
クリプトスポリジウム症	1			
クロイツフェルト・ヤコブ病	29			
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	141	1		
後天性免疫不全症候群	160			
ジアルジア症	9			
侵襲性インフルエンザ菌感染症	48		1	
侵襲性髄膜炎菌感染症				
侵襲性肺炎球菌感染症	213	4		
水痘(入院例に限る)	49	1		
先天性風しん症候群	1			
梅毒	1082	11	1	
播種性クリプトコックス症	25			
破傷風	13			
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症				
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	15			
百日咳	124	3		
風しん	4			
麻しん				
薬剤耐性アシネトバクター感染症				
* 新型コロナウイルス感染症	120	8		

* 新型インフルエンザ等感染症

トピック

<川崎病について>

川崎病は、全身の血管に炎症が起こることによって様々な症状が出る原因不明の病気です。この病気は、1967年に川崎富作博士によって「急性熱性皮膚粘膜リンパ腺症候群」として公表され、その後、この博士の名前から川崎病という病名がつけられました。原因は不明ですが、ウイルスや細菌に感染したことをきっかけに発症する可能性があり、患者の増加する時期もあることから、秋田県では、35カ所の定点医療機関(小児科)の協力のもと川崎病の発生状況を調査しています(図)。

■症状

表に示した6つの主要な症状のうち、経過中に5つ以上の症状がある場合、川崎病と診断されます。また、心臓に血液を送る冠動脈の血管壁にこぶ(冠動脈瘤)ができることがあり、4つの症状しかなくても冠動脈瘤が見られた場合も、川崎病と診断されます。症状がそろわなくても他の病気ではないと判断された場合は、不全型川崎病と診断されます。

■発生状況

患者の3~4%に再発がみられ、兄弟でかかる場合が1~2%あります。ただし、川崎病自体はヒトからヒトにうつる病気ではないと考えられています。また、川崎病は世界中で報告されていますが、特に日本人を含むアジア系の人が多く発症しています。秋田県では、年間数例から十数例の患者報告があるのみで、患者数の大きな変動はみられていません(図)。

■予防

原因不明のため、明確な予防法はありません。ただし、発症した際に冠動脈に血の塊やこぶができて、血の流れが止まったり悪くなったりするのを避ける必要がありますので、早期の治療によってできるだけ早く熱を下げ、血管の炎症を抑えることが大切です。

表 川崎病の特徴的な6つの症状

1. 発熱
2. 両側眼球結膜の充血
3. 口唇の紅潮、いちご舌、口腔咽頭粘膜のびまん性発赤
4. 発疹(BCG接種痕の発赤を含む)
5. 急性期:手足の硬性浮腫、手掌足底または指趾先端の紅斑
回復期:指先からの膜様落屑(まくようらくせつ)
6. 急性期における非化膿性頸部リンパ節腫脹

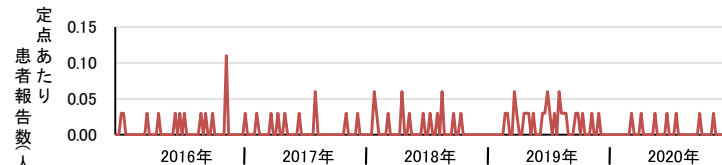


図 秋田県における川崎病の定点あたり患者報告数の推移

感染症の集団発生報告

感染性胃腸炎集団発生の報告が3件ありました。

所在地	施設名	報告日	有症者数			把握期間	症状	備考
			利用者(園児、入所者等)	職員	計			
羽後町	みわこども園	3/17	121 名のうち 12 名	31 名のうち 5 名	17 名	3/10 ~ 3/17	嘔吐、下痢、発熱	ノロウイルス検出
能代市	ショートステイ やさしい風	3/18	37 名のうち 7 名	20 名のうち 5 名	12 名	3/18 ~ 3/18	嘔吐、下痢	ノロウイルス検出
秋田市	あおぞら幼保連携型認定こども園	3/19	148 名のうち 20 名	50 名のうち 0 名	20 名	3/18 ~ 3/19	嘔吐、下痢、発熱	



【注意報・警報の発生状況】

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

【注意報・警報の定義】

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		